

# 大泉緑地 加呂登池での田植え 堺市立北八下幼稚園（大阪府堺市）

【5歳児】

四季を通じて出かけている身近な自然体験の環境である大泉緑地内の「加呂登池」は、ヨシやショウブが茂りメダカやザリガニなど生き物がたくさんいる。その自然の中で、保育者や友達に支えられて田植えをし、少しずつ気持ちに変化が表れたA児の事例  
 <願：田植えの面白さやお米ができる喜びを味わわせたい>

A児の心の揺れ動き

保育者の援助・友達の様子や言葉

不安・嫌悪感

・A児は、池に入ることを嫌がっていた。

・友達の様子を見たり聞いたりする。

「先生、ここに植えるよ。もっとやってみよう？」と楽しい様子

気持ちいいなあ。おもしろいわあ。



なんかおもしろそうやなあ。  
くんもやっているしなあ。  
一回だけやってみようかなあ。  
お餅は食べたいしなあ。

・先生の様子も見る。

A児の気持ちを大切にしながら「Aちゃん、どうしてる？見てる？先生、今入っているけど池の中は深くないし大丈夫よ！お米できたらいいなあ。お餅も食べたいな」

やってみようかな

A児：やってみるわ！

保育者：そう！じゃあ、一緒に植えよう！



気持ち悪いけど何か気持ちいいな。嫌やって思っていたけど大丈夫やわあ。もっと植えよう。

A児：わあー！にゆるにゆるするなあー。  
でも、植えるのは簡単や。

A児と同じ経験をし、お米に対する期待を持たせる。

ときめき・安心  
自分発見

保育者：そうやね。たくさんお米できたらいいね。お餅もたくさんできるよ。



A児：うあー、楽しみや！  
・印の着いてある場所に、稲を植える。

稲を植えたことを認め、次につなげる。

自信  
次への期待感

保育者：上手にできたね。すごいね！  
たくさんあるから何回もチャレンジしていいよ。

A児：やったあ！もっとするわ。おもしろい。



植えるのは、簡単や！  
いっぱいできたらいいなあ  
どんな風になるかな？

Aちゃん、何回やった？面白いな。  
一緒にやろう。  
さっきカエルもいたよ。



A児は、この後友達と何回も往復し回数を競うように稲を植えて、最後まで池に入って、とても満足そうに幼稚園に帰ってきた。

**【成果と課題】**A児の不安な気持ちを受け止め、教師が同一体験者として先に池に入り水の冷たさや心地よさ、また泥が足に食い込む感触を味わった。その様子や友達が水の中で楽しそうにしている姿などが、A児の気持ちを揺さぶり「やってみよう」「やったー」「できた」の喜びに変化し安心感をもって取り組み、A児の自信に繋がった。今後園内での田植えでは、抵抗なく主体的に取り組むことができるのではないかとと思われる。二学期になっても定期的に訪れ観察し、稲への思いを膨らませたいと考えている。

## みどころ

ひとりの幼児に着目して具体的な言葉や心の揺れを分析することで、その幼児の変容を捉えることができ、今後の指導助言の手がかりになります。一斉にみんなが活動する場面であっても、「A児の不安な気持ちを受け止め、教師が同一体験者として先に池に入り～」という、活動全体の流れや保育者の意図なども分析することができます。「この活動がお米の収穫に結びつく」ということをA児が予想できることは、この変容に欠かせないポイントです。こうした要因は、幼児理解や指導の手がかりになります。